

出穂期は平年並みの見込み！生育診断を実施し穂肥を施用！

1 穂肥時期のめやす(分施肥体系)

- 7月17日現在の稲姿は、草丈：長い、茎数：並、葉数：並～やや遅い、葉色：濃い。
- 日頃から草丈や茎数、葉色など生育状況を把握しておき、品種に応じて2回目の穂肥時期と施用量を決定する。

品 種	出穂期のめやす	2回目穂肥		2回合計窒素量 (kg/10a)
		時 期	出穂期前日数	
こがねもち	7/29頃	7/20頃	10	1～3
コシヒカリ (平坦地) (中山間地)	8/2頃	7/24頃	10	1～3
	8/9頃	7/30頃		
にじのきらめき	8/6頃	7/23頃	14	2～5
みずほの輝き	8/10頃	7/27頃	14	3
新之助	8/7頃	7/26頃	12	0.5～3

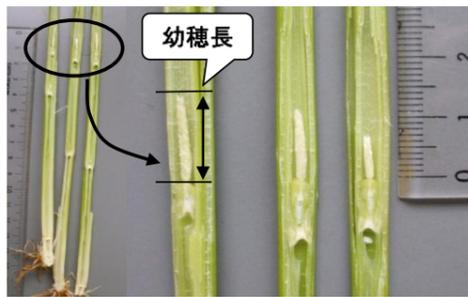
※えちご上越専用穂肥チャレンジャー
6.7kg/10a (窒素量 1.0kg/10a)
※越後の輝き有機 50 穂肥
10.0kg/10a (窒素量 1.0kg/10a)
※硫安 (大粒)
5.0kg/10a (窒素量 1.05kg/10a)

2 コシヒカリの生育診断

- 1回目穂肥を控えた圃場では、2回目穂肥は後期栄養維持のため確実に施用する。
- 全量基肥肥料に含まれる緩効性肥料は土壌水分が不足すると窒素成分が溶出しにくくなるので、土壌水分の保持に努める。

(1) 幼穂長と出穂前日数のめやす

幼穂長 (cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2～0.4	20日
0.5～1.0	18日
4～6	12日
8～11	10日



JAえちご上越 営農部公式 LINE 友だち募集中！
営農に役立つ情報をすばやくキャッチ！
水稲栽培技術情報、異常気象対応緊急情報、園芸関連情報、
米販売代金関連情報、各種講習会・研修会・実演会のご案内など
今必要な情報が、あなたのスマホにタイムリーに届きます。
右のQRコードからご登録をお願いします。⇒

(2) 2回目穂肥の診断めやす(出穂12日前頃)

出穂14～12日前の葉色(単葉)	2回目の穂肥量(10a当たり)
SPAD値 32～34 (葉色板 4.2～4.5)	基準量どおり施用 (1.0～1.5kg)
SPAD値 35以上 (葉色板 4.6以上)	施用量を減らす (0.7～1.0kg 未満)

(3) 出穂期10日前以降の穂肥(3回目)の対応

- 登熟期間が高温と予想され、葉色が薄い場合は、以下を参考に3回目穂肥を検討する。

施肥体系 (基肥+穂肥)	判断時期	葉色のめやす	施用時期	施用窒素量 (kg/10a)	施用する肥料
慣行栽培 (化学肥料体系)	出穂期3日前の葉色	SPAD値 31以下 葉色板 4.0以下※	出穂期3日前	1.0kg/10aを上限	化学肥料
特別栽培 (減化学肥料体系)	出穂期6日前の葉色	SPAD値 33以下 葉色板 4.5以下※	出穂期3日前	1.0kg/10a程度	有機50%肥料

※単葉の測定値

(4) 全量基肥施肥(一発肥料)の対応

- コシヒカリでは、出穂後に高温が予想される場合、葉色の推移に注意し出穂期の葉色 (SPAD値) が32～33を下回ると予想される場合には、出穂期10日前までに追肥する。

3 斑点米カメムシ類による斑点米発生防止

- 斑点米カメムシ類の多くは出穂したイネ科雑草を好むので、種子が結実しない間隔で草刈りする。
- 薬剤防除の場合、穂揃期をめやすに散布するが、剤型(粉剤・液剤・粒剤等)により散布適期が異なるので、剤型に応じた適期に散布する。
- 斑点米常発地で共同防除より出穂期が10日以上早い品種では、共同防除前の追加防除が有効である。

主な斑点米カメムシ類



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



オオトゲシラホシカメ



ホソハラカメ



クモヘリカメ

[出典：新潟県農業総合研究所作物研究センター]